

大津ビジョン “循環器領域における世界最高峰の機関を目指して”

2022年（令和4年）2月 国立循環器病研究センター理事長 大津欣也

1. 循環器領域で世界最高峰の研究成果やFirst in Humanを含んだ診療実績を有する機関となる。
2. 産学連携の推進により、研究成果を積極的に社会に還元する。
3. 我が国のみならず世界から人材を集めるとともに、世界に優秀な人材を輩出するための教育を行い、循環器領域の梁山泊を目指す。

【重点的に取り組む7分野】

（1）循環器病克服を目指した病因、創薬研究

研究所から病院へのトランスレーショナル研究、病院から研究所へのリバーストランスレーショナル研究の好循環を生み出す。

（2）再生医療

基礎研究と臨床研究を融合させ、治療への応用を目指す（2022.4に海外から研究者を招聘し、再生医療センターを設置）。

（3）ゲノム医療

効果的な治療選択、重症化・発症予防だけに留まらず、治療法の研究開発を視野に取り組む。

（4）予防・社会医学

吹田研究等の蓄積を活かしつつ、multi-omicsデータを組み合わせ、予防・社会医学関連諸部門のさらなる連携進化により機能を強化する。

（5）医療機器の開発（人工心臓、ECMO）

長年の努力で開発した人工心臓やECMOを実用化し、医工連携の豊富な実績を活かす。

（6）医療情報の活用、AI、DX

膨大な医療情報をAIやデジタル技術で統合し、様々な治療法の検証や新たな治療法の開発につなげる。これら医療情報をPHRとして活用する基盤を構築する。

（7）大規模臨床試験の実施

臨床研究中核病院の取得を目指すとともに、大規模臨床試験において中核的な役割を果たす。

【具体的な取組（主なもの）】

- (1) 優秀な人材の確保（若手研究者がPIとして腕試しを行う独立型研究室の設置、役職任期制の導入）
- (2) 研究環境の整備（人材交流、スペースの共有、情報バイオリソース共有、インハウス予算の戦略的配分）
- (3) 病院運営の改革（NCにふさわしい医療の提供、インバウンド患者対応、専門家が育つ新人事制度）
- (4) オープンイノベーションの推進（ベンチャー支援、共同研究推進、研究成果のビジネス展開）
- (5) 事務機能の強化（Specialist採用、人事交流、センター雇用職員の増加）
- (6) 広報の強化（世界水準のHPの構築、戦略的なメディア対応、SNSの活用）
- (7) 国際化の推進（海外の研究機関との連携の推進、国循環の医療技術の国際展開）
- (8) 働きやすい環境づくり（医師の働き方改革、ハラスメントのない職場環境、風通しのよい組織風土）
- (9) 自治体との連携（「吹田NEXT研究（心不全予防）」の実施、健都の活性化）

ビジョンの実現を支える重要プロジェクト等

JST共創の場形成支援プログラム
（バイオ分野・本格型）

循環器病データベースの構築と運営
（循環器病対策基本法）

財務基盤の強化（収支改善プロジェクト実施、外部資金獲得、寄付獲得）

【ビジョンの実現に向けた職員へのメッセージ】

1. 夢を持ち、夢の実現に向けて取り組む
2. できない理由ではなく、どうすればできるかを考える
3. 漫然と前例を踏襲しない
4. 黒衣になることに誇りを持つ

→ 理事長直轄のPMO(Project Management Office)を設置し、マイルストーンを明らかにしたロードマップを作成し、時間軸を決めて進捗管理を行い、ビジョンの実現に向けて取り組む。